

# 遅すぎた

# GOTOトラベル停止

ジャーナリスト

泉 洋海

政府は年末年始にあたる昨年12月28日から1月11日まで、新型コロナウイルス感染症に関する観光支援事業「GOTOトラベル」を全国一斉に一時停止した。菅義偉首相は専門家組織に何度も停止を直言されたにもかかわらず、経済復興を優先して同事業にこだわり、対策を小出しにした末の決断だった。この間、12月9～15日の1週間に報告された感染者は1万8000人を超え、前の2週間の1万5000人を大きく上



脇田隆字座長(左)、尾身茂会長(右)

回った。菅首相の新型コロナウイルス対応への不信に加え、吉川貴盛元農相らの現金受領疑惑や安倍晋三前首相の「桜を見る会」を巡る問題が追い打ちをかけて内閣支持率は急降下し、解散・総選挙の戦略にも暗雲が漂う。

## 支持率ダウン

「(首相の決断が)後手に回った結果、飲食、観光業にさらに打撃を与えた」。かき入れ時となる年末年始のGOTOトラベルの停止が決まったことを受け、立憲民主党の枝野幸男党首はそう批判した。

第3波とも言える同ウイルスの感染が大都市を中心に猛威を振るっている。特に東京、大阪、札幌の感染者の増加は著しく、11月24日に大阪、札幌両市を目的地とするGOTOの割引は一時停止に。その後、両市からの出発にも割引利用の自粛要請が出た。ところが、最も感染者が多く、

人の出入りが激しい東京については当初、何の手だてもされなかった。

ようやく東京の高齢者らについて、GOTO割引の利用自粛が呼び掛けられたのは12月に入ってから。それでも、感染者の増加に歯止めはかからず、首相が全国一時停止を選択肢として考えるようになったのは、1日の新規感染者が3000人を超えた12月12日だったという。

内閣支持率の大幅ダウンも首相の決断を後押しした。共同通信が行った12月初旬の世論調査での内閣支持率は50・3パーセントと前回調査より12・7ポイントもダウン。NHKの調査では、前回調査より14ポイント低下して、42パーセントとなるなど急激な落ち込みを見せた。衆院の任期満了を秋に控え、支持率低下に与党議員は穏やかではない。それぞれの思惑もあり、党内からもコロナ対応に批判が出た。

## 「勝負の3週間」効果なく

新型コロナウイルスの感染者が増加したのを受け、政府は11月25日に飲食店に営業時間の短縮を要請。西村康稔経済再生担当相は「勝負の3週間」と打ち上げ、国民に理解を求めた。だが、国内で最大の感染者を出し続ける東京で、観光支援事業であるGOTOトラベルを続けていたのでは、国民に誤ったメッセージを送ってしまう。「ぜひ、旅行をしよう」というサインを送ることは、飲食や外出の後押しにはなっても、自粛を促すことにはならない。政府の本気度に疑問を感じ、人々の行動も緩む。既に第1派、第2派を経験した国民は、新型コロナウイルスがある世界に慣れ、そう簡単に行動を変えない。予想通り、勝負の3週間にも感染者増加に歯止めはかからなかった。

厚生労働省に新型コロナウイルス



西村康稔経済再生担当大臣

感染症対策を助言する専門家組織は、この3週間について、国内の感染は「直近で増加に転じ、過去最多の水準が続いている」と分析。北海道、東京、大阪、兵庫など9都道府県の感染者が全国の感染者の75パーセントを占め、これらの大都市で感染が広がった上、地方都市でも感染が増えてきているのが第3派の特徴だという。

病床も逼迫した。大阪、兵庫で70パーセント以上が使われ、北海道、東京、愛知、埼玉でも50パーセント以上が埋まっているという。このため、脇田隆字座長（国立感染症研究所長）は「状況を改善させるには、大都市の感染拡大を抑制するのがカギ」と指摘した。

ただ、GOTOの年末年始の一時停止について、脇田座長は「人の移

動を減らすためには必要だが、それだけでは感染拡大を止めるのには不十分」とも発言している。対応が遅すぎてもはや、人の移動を止めるだけでは手に負えなくなっているということだ。

### 8人の忘年会

「静かなお正月を」「かからないのが医療従事者への最大の支援」。西村担当相や医師会などが危機感を持って国民に呼び掛けている最中、菅首相はまたもや緊張感のなさをさらけ出した。GOTOトラベルの中止を表明したまさにその夜、自身は東京・銀座で8人による忘年会に出席していたのだ。

有識者と懇談して意見を聞き、政策に反映するのが普流だが、政府や分科会が呼び掛けた「5人以上」の会合となる場合も。この日も銀座のステーキ店で、自民党の二階俊博幹事長やプロ野球ソフトバンクの王貞治球団会長、俳優の杉良太郎氏らとの忘年会に顔を出した。

分科会は忘年会や年末年始の過ごし方について、「なるべく普段から一緒にいる人と少人数で」と提言し



8人の忘年会に出席した菅総理

ている。首相の行動がこれに矛盾しているのは明らかで、翌日、加藤勝信官房長官や西村担当相は「5人と一律に決めているわけではない」とど弁明に追われた。首相が会食は5人までと言ったかどうかは問題なのではない。緊張感を持って自らの行動を律しているかが問題なのだ。立憲民主党の福山哲郎幹事長は「なるべく自粛して、首相として模範になつていただくべきだ」と苦言を呈した。

### 政権運営に暗雲

菅首相がGOTOに固執し、感染が拡大しているにもかかわらず、対策を小出ししてきたつけは、かき入れ時である年末年始の支援中止という、観光業にとって最も痛手と

なる措置となった。「感染拡大の適切な時期に除外措置をしていれば、全国一斉停止は避けられたのではないか」と地方の首長からは不満の声も上がる。

高い支持率でスタートした菅政権。本来は、就任から3カ月程度はハネムーン期間で、支持率も高止まりするのが普通だが、早くも拒否が突き付けられた格好だ。当初から指摘されてきたことだが「菅政権には菅官房長官がいらない」と言われるように、調整役が不在なのが問題とされる。さらに与党間の根回しがないままトップダウンで決めたり、会見がこれまでに3回と、国民への説明が不足していたりといったことを指摘する声もある。菅首相はその後の新型コロナウイルス対策に関する会見で「国民への説明が十分でなかった面がある」と反省を口にした。

それに加えて、早期の幕引きを図る安倍前首相による「桜を見る会」の前日に開いた食事会への費用補てんや、吉川元農相への資金提供疑惑など火種は多い。解散・総選挙をにらみ当面は危うい政権運営が続きそうだ。